

Hop Step Jump

13

初任者研修第 13 回

児童生徒理解④

アンケートの感想から

今回の研修は、池田市教育センターを会場に、児童生徒理解を深めるために④～いじめ防止・対応を中心として～というテーマでした。講師は池田市教育センターの副所長、藤本先生です。

生徒指導というと様々な難しい事例を想像しがちだったが、目的である「社会性の育成」というのはすべての生徒に対して考えなければならないと思った。事例を班で交流しながら検討するのも、自分の考えを深める良いきっかけとなった。今日配付された資料をもう一度見直し、明日からの生徒との関わりに活かせればと思う。

生徒指導とは、いじめの背景や仕組み、いじめ防止や起きた際の対応、そして保護者対応についてなど、調査や資料、藤本先生の経験等を通じて、とても大切な内容を講義と事例検討で学びました。

まずは、防止に努めること、起こらないための学級作りが必要だと思いました。そして、起こってしまったときは、色々な人に相談しながら、被害者の気持ちを大切にしたい素早い対応が重要と思いました。

子どもからいじめられているという相談があったとき、どのように反応してしまうでしょうか。保健室の先生や保護者からいじめの報告や訴えを受けたらどう対応するでしょうか。唯一の正解はないかもしれませんが、最善だと考えられる対応はあります。

班のメンバーが低学年、高学年、養護の先生だったので、有意義な活動になりました。私自身クラス経営において、女子や子どもたちの家庭の状況について、養護の先生にはお世話になっているので、今の取り組みの話をきけてとても参考になりました。

チームで対応すれば、多くの知恵を集めることができ、大切な視点を漏らさず共有できるはずです。この研修では一例の対応について検討しましたが、重要なのはその答えではなく、事例検討の手法です。管理職や先輩に助けを求め、学校内で同じような検討をする必要がある訳です。

いじめが起こるのを未然に防止することはもちろん、起こってしまったときの具体的な対応、事例を通してとても参考になりました。この 1 つずつの項目がパツと思うかべられるかが勝負だと思いました。時間、順番がむずかしいなあと思います。子どもの間違いをどう正していくのか、教師の役割だと思います。

たとえ小学 1 年生でも、子どもたちの普段の言葉づかいや関係性の中にいじめの目はあります。そういったものに敏感になり、どう成長につなげていくのか。子どもたちが生活の中で起こすケンカやめごと、ちゃんと対応すれば学びにつなげることもできるはずです。ケンカしても、失敗しても、信頼できる先生のもとで、安心してチャレンジさせてやりたいものです。

教育以前に人間として自分はどのような哲学の元、行動し、思考すべきか、考えさせられる講義でした。確かに人間性ができていない教師が担任になって教えられても心にはなかなかひびかないと思います。児童の命・心を守る職に就いているという自覚を改めて持たないと、強く思いました。ありがとうございました。

そもそも自分が信頼できる先生として子どもたちや保護者の目に映っているのか。自分自身が子どもたちや保護者、同僚、管理職など、自分に関わる人たちに対して誠実に振る舞っているかどうか、人としての誠実な姿勢や成長が問われているのかもしれません。

お忙しい中、ありがとうございました。最後の「学校は生徒の命と心をあずかっている」という言葉が印象に残りました。特に、教師が生徒にストレスを与えることについて、もう一度自分の授業、生徒への接し方について、考え直したいと思います。

何よりも、学校で子どもたちが人間関係をあきらめてしまうことだけは避けなければなりません。私たちは、子どもたちが大人を信頼し続け、人に希望を持ち続けられるように、身近な大人の代表として、子どもたちの前に立っているのです。